

# ときめき 鹿島

Beating Kashima

2016.7  
夏号  
56号

ポラリス

★ポラリス(北極星)を目指すには北極星を見分けること。目指すところ(方向)は一緒でもやり方はそれぞれ多種多様。一人一人の思いをエッセイの形で伝えたい。

## 田野医師のポラリス

医師 田野 俊平

### 医療機関において島根初導入!

### 足こぎ車いすと支援アプリケーションで効果のあるリハビリテーションをより楽しく!

医療法人財団 公仁会 鹿島病院は、島根県の「地域医療の向上に向けた公募型チャレンジ事業<sup>※1</sup>」を活用し、『足こぎ車いす<sup>※2</sup>を活用した片麻痺患者のリハビリとその効果判定ソフトウェアに関する実証』する事業に取り組みました。

脳卒中後遺症や脊髄損傷等で片麻痺となっている方に対して、リハビリテーション訓練の一環に足こぎ車いすを導入した場合、麻痺側の改善がより促進され、早期の在宅復帰につながると期待しています。

さらに鹿島病院と(株)テクノプロジェクトは、筋電・筋音ハイブリッドセンサ<sup>※3</sup>と連携するアプリケーション『足こぎ車いすリハビリテーション支援アプリ』を開発しました。



足こぎ車いすと支援アプリケーション用のタブレット



筋電・筋音ハイブリッドセンサ



支援アプリケーションの画面



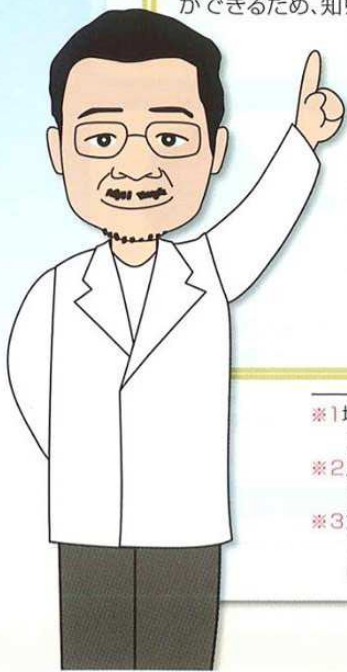
### 実証事業の成果

足こぎ車いすは、自転車のようにペダルにより動力を生む車いすです。脳卒中、脊髄損傷等で歩行困難な方でも、どちらかの足が少しでも動かせれば、ごく軽い力でもこげる可能性を持っています。早足程度のスピードで心地よい長距離サイクリングができるため、知らず知らずのうちに、障害側の下肢筋肉衰弱および関節拘縮の予防効果や、神経回路を賦活させることで神経筋の再教育効果等、楽しく無理のないリハビリテーションで効果を得ることができると評価しました。

開発した支援アプリは筋電・筋音ハイブリッドセンサと連携して筋肉の動きから移動距離を計算し、地図上をバーチャルに走行しているように表示するものです。走行している場所の景色を写真で見ることがもできます。患者はセンサを装着して足こぎ車いすでリハビリテーション室内を移動しますが、支援アプリでは設定した地図上のコースの目的地を目指して走行します。この支援アプリを使うことで、患者は景色を見ながら、楽しく運動することができます。リハビリに対する達成感や意欲の向上への働きかけに有効であり、実際に利用した患者からは「リハビリテーションの訓練のみならず遊び感覚でも続けていきたいと感じられる」と評価されました。



- ※1 地域医療の向上に向けた公募型チャレンジ事業とは  
臨床現場における医師が行う先駆的な取り組みや研究に対して支援するものとして、島根県が公募した事業です。
- ※2 足こぎ車いすとは  
株式会社TESSが販売している最先端の介護福祉機器です。[製品名: Profhand(プロフハンド)]
- ※3 筋電・筋音ハイブリッドセンサとは  
岡山大学大学院 岡久雄教授が研究開発。  
どのくらい力を込められているか(筋電計)、どのくらい筋肉がふくらんだか(筋音計)を同時に測ることができるセンサです。



# スキルアップ

— 研修に行ってきました —

## 看護師のための認知症ケア講座

看護部 桑谷 昌子



全国から1,000人を超える看護師が集まり、認知症ケアについて学びました。始めに、認知症とは何か、認知症の症状を引き起こす原因疾患について学びました。予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症そのものについて知ることが出来ました。

認知症患者様の看護をするためには、情報収集とアセスメントが必要ですが一人で判断するのではなくチームで繰り返し話合うことで、いろいろな視点から判断できると再確認できました。入院時の適切な理解と対応が、その後の経過や生活に大きく影響することがわかりました。

「認知症の人の行動は援助者の鏡」と言われましたが、対応が悪ければBPSDを引き起こしてしまうことを学び、ケアをする人の心身状態にも配慮が必要だと学びました。家族には「今、一番困っていることは何か」と問うことで、医療者が考えていることと違う内容を引き出せる場合があるようです。ねぎらいの声かけをし、家族とも良い関係を保つことが大切だと再確認できました。

今後は手順書の作成が必要のようなので、今回の学びをまとめ、伝えていけるといいです。研修に参加させていただき、ありがとうございました。

## 排尿機能回復のための治療とケア講座

看護部 永田 舞



本研修では、下部尿路の解剖から排尿障害の支援方法まで、3日間に渡り詳しく教えていただくことができた。講師の先生は医師、看護師だけでなく、理学療法士、作業療法士からの講習もあり、排尿自立に向けた多方面からのアプローチを学ぶことができたように思う。講義の中で何度も出てきた「排尿日誌」というものは、多くの病院で使用されている患者の排尿パターンを把握する日誌で、失禁のタイプを診断、推測するためには不可欠なものであるとのことであった。その排尿日誌を元に、多職種でカンファレンスを行い、その患者の排尿機能を回復するためのケア方法を決めていくことが大切であることを学んだ。排尿自立していくことは患者にとって極めて重要なことである。「まずはバルーンカテーテルを抜くことから」という講師の先生の言葉を胸に、医師と連携して今後の排尿ケアに関わっていきたいと感じた。

## 応急手当普及員講座

リハビリテーション部 藤原 法文



心肺蘇生法については当院の研修などで行ったことがあったが、今回3日間をかけて、自分ができること、そして、他者に教えることを学び、今までと意識が変わった。予防が大切であることや救急隊に引き継ぐまでの流れなどデモンストレーションを通じ勉強することができた。

今回学んだことを当院での研修などで役立てていきたいと思う。

## ADL評価法FIM講習会

看護部 福村 智之



6月25日、兵庫医科大学にてFIM評価法講習会に参加させて頂きました。

診療報酬改訂により、アウトカム評価が導入となり参加者も多数おられました。

講習では、FIM開発の経緯から各運動項目・認知項目の評価基準・採点方法を、事例を交えて説明され、現行の内容に加え後に定義に加わった内容なども非常に分かりやすかったです。今回の講習で得た知識をスタッフに周知すると共に、今後も「FIM利得」と「入院日数」を意識しながらカンファレンスに参加していきたいと思えます。また普段から各職種・御家族との情報共有を密にし、患者の能力・目的に合わせたアプローチを今以上に病棟からも発信できるよう努力していきたいと思えます。ありがとうございました。

## 医療事務作業補助者

事務部 金津 洋



研修の中で、この業務の主となるものに意見書の作成や診断書の作成があり、円滑にこなしていくには経験と文章能力(センス)だと言われました。今後は経験を積み、文章能力を補いつつ役立てたいと思います。

事務部 吉岡 亜美



今回初めてこういった研修に行かせていただいて、どの講義も勉強になることばかりでした。講義を聞いて感じたのは、この業務をこなしていくには豊富な知識も必要になってくるということです。講師の方が言っておられた、「医療クラークは医師と患者さんをつなぐ役割」という言葉のとおり、今後のチーム医療に必要な存在であると同時にそうなるためにはもっと知識を頭にいれていかなきゃなと思いました。この2日間の研修を通して改めて、「医師事務作業補助」という仕事の重要さ・すばらしさを実感できました。私もそんな必要とされる存在になれるよう、スキルアップに努めていきたいです。

事務部 大廻由起子



2日間の研修を通して「医師事務作業補助者」がこれからの医療に欠かせない存在であることが良く分かりました。チーム医療の一員として鹿島病院に貢献出来る一人になれるように頑張りたいと思います。有意義な研修会でした。ありがとうございました。



## 鹿島病院研修を終えて

今回平成28年6月の一ヶ月の間、鹿島病院にて研修させて頂きました。それまで急性期病院でしか研修をしておらず慢性期医療に関して具体的なイメージをあまり持っていませんでしたが、研修を通じて少しずつ理解することができました。往診などで退院後の生活境を実際に見たことで、入院中も退院後のことを常に想定して患者さんに接することで入院中から退院後のギャップをできるだけ少なくすることが大切だと意識しました。

松江赤十字病院  
研修医2年目

高 仁 佑

また研修中強く感じたのは鹿島病院では職種間の連携が非常に取られているという事でした。慢性期では退院後も往診・訪問看護・通所リハ・デイサービスなど長期にわたり多くの医療従事者が患者さんに関わるため情報共有と連携の大切さを実感しました。急性期病院での治療期間はどんどん短くなっており、より一層慢性期病院と退院後介護サービスの役割が大きくなっていくと思われます。

最後にこの一ヶ月間、患者さん病院のスタッフさんをはじめいろいろな方のお世話になりました。鹿島病院での経験をこの先しっかりと生かしていきたいです。今後何かの機会に関わらせていただく機会があるかもしれませんが、その時はよろしく願いいたします。ありがとうございました。



## 地域連携室便り 48

鹿島病院はH25年からH27年の3年間「島根県在宅医療連携推進事業」の連携拠点病院として、活動を続けてきました。今回は島根大学の杉崎千洋先生にその活動が在宅医療連携にどのような効果をもたらしたかなどの評価報告を書いていただきましたので紹介いたします。

# 鹿島病院在宅医療連携推進事業評価報告 活動・研修により地域連携が進んだ！

島根大学法文学部 杉崎千洋

## 1. 本報告の目的

島根県の委託事業として2013～2015年度(平成25～27年度)に取り組まれた鹿島病院在宅医療連携推進事業の評価を、地域連携尺度を用いて行う。同事業は多岐にわたるため、2014～2015年度に取り組まれた開業医(「黒田会」)、ケアマネジャー、鹿島病院医師や職員などによる地域連携、在宅医療連携を進めるための研修を中心とした活動の評価を行う。

## 2. 活動・研修の経緯

表1は、本事業における地域連携、在宅医療連携を促進するための主な活動・研修を整理したものである。初年度である2013年度は、第1回と第2回を開催し、この地域の在宅医療連携の課題抽出と設定を行った。

主な評価対象となる活動・研修は、2014年度、2015年度に開催された第3回～第7回である。2014年度は、主に開業医とケアマネジャーとの顔の見える関係づくりを目的に、小グループによる高齢者の看取りの事例検討などを3回(第3回～第5回)実施した。最終年度である2015年度は、対象を施設職員などにも広げ、病院、施設での看取り、それを支える政策などについての研修を2回行った。そのうち第6回は討論形式であったが、第7回はやはり小グループによる話し合いであった。

表1 鹿島病院在宅医療連携推進事業の  
主な活動・研修

開催日	内容
第1回 (2014/1/30)	地域の在宅医療連携の課題抽出
第2回 (2014/3/6)	地域の課題、この事業の方針を確認
第3回 (2014/6/31)	地域で顔の見える関係を作る (開業医とケアマネジャーの関係を中心に)
第4回 (2014/11/7)	高齢者の終末期における多職種間の連携 「絶対に家に帰りたい」96歳の一人暮らし事例
第5回 (2015/3/5)	「末期がん患者の支援を多職種で検討しよう」
第6回 (2015/6/11)	病院や施設での看取りの現状と課題
第7回 (2015/8/27)	高齢者の医療・介護について地域の現状を知る
第8回 (2016/2/4)	ふりかえり 懇親会
第9回 (2016/2/27)	講演会「わが町で最期まで暮らし続けるために ～知っておきたい地域医療と介護のこと～」

作成：鹿島病院医療相談部 小林裕恵  
注：筆者一部変更

## 3. 地域連携尺度を用いた活動・研修評価

活動・研修参加者に、地域連携を測定するための尺度<sup>1)</sup>を組み込んだアンケート調査を、開始前(第3回。一部は第4回)、終了後(第8回)に実施し、その得点の比較により地域連携がすすんだのか、そうでないかを検討した(図1)。この尺度は6つの大項目で構成されている。各項目の最低点は1点、最高点は5点である。なお、本調査の対象と方法などの詳細は、別稿<sup>2)</sup>を参照されたい。

図1 活動・研修前後の地域連携の比較の概念図



#### 4. 活動・研修の開始前と終了後の調査結果

表2 活動・研修開始前と終了後の地域連携尺度得点の比較

項目	開始前	終了後	p値
【他の施設の関係者とやりとりができる】	3.6±0.8 (n=62)	4.0±0.7 (n=27)	0.053
【地域の他の職種の役割がわかる】	3.5±0.8 (n=62)	3.9±0.5 (n=27)	0.007 **
【地域の関係者の名前と顔・考え方がわかる】	2.9±0.9 (n=62)	3.5±0.7 (n=27)	0.002 **
【地域の多職種で会ったり話し合う機会がある】	3.1±0.9 (n=62)	3.8±0.7 (n=27)	0.000 ***
【地域の相談できるネットワークがある】	3.4±0.9 (n=62)	3.9±0.8 (n=27)	0.007 **
【地域のリソースが具体的にわかる】	3.5±0.8 (n=62)	3.6±0.8 (n=27)	0.321
合計得点	3.3±0.7 (n=62)	3.8±0.6 (n=27)	0.004 **

\*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

表2は、6項目の活動・研修開始前、終了後の平均得点、標準偏差、開始前と終了後の検定結果(p値)を示したものである。統計的検定には、対応がなく分散が等しいと見なせる場合のt検定を用いた。

地域連携尺度得点は、「地域の他の職種の役割がわかる」「地域の関係者の名前と顔・考え方がわかる」「地域の多職種で会ったり話し合う機会がある」「地域の相談できるネットワークがある」の4項目で有意に上昇していた。合計も3.3から3.8に有意に変化していた。有意に上昇しなかった「他の施設の関係者とやりとりができる」、「地域のリソースが具体的にわかる」の2項目の得点は、開始前でも3点台中盤～後半と高かった。

#### 5. 考察と今後の課題

地域連携尺度の得点は、6項目中4項目で有意な上昇が見られたことから、本事業により参加者全般の地域連携は進んだと考えられる。「他の施設の関係者とやりとりができる」「地域のリソースが具体的にわかる」では有意に上昇しなかったが、開始前から得点は高かったことから、本事業による活動・研修開始前から、ある程度の関係構築がされ、連携が行われていたと考えられる。

6項目中4項目で有意に上昇したのは、活動・研修以前からあった関係を下敷きにしつつも、顔の見えやすい小グループで行った事例検討などの場での率直な意見交換などが直接の契機になり生じたと考えられる。そして、その後も職場、職種(とくに医師とケアマネジャー)を越えた関係構築が地域内で進み、他職種の把握、役割理解だけでなく、多職種による話し合いやネットワーク形成までできるようになったと考えられる。

地域連携は進展したが、それを持続させるには継続的な活動・研修が不可欠である。本事業による活動・研修(表1参照)は、地域連携、多職種連携の具体的・実践的技術、例えば多職種によるカンファレンスの進め方や、結論の出し方などを行ってはいない。今後の課題は、日常生活圏域単位で、なおかつ多職場・多職種でそうしたワークショップなどを開催し、それによる技術向上などを評価することであろう。

#### 文献

- 1)阿部泰之・森田達也(2014)「『医療介護福祉の地域連携尺度』の開発」、『Palliative Care Research』9(1),114-120.
- 2)杉崎千洋(2016)「平成25～27年度島根県在宅医療連携推進事業報告 地域連携尺度を用いた鹿島病院在宅医療連携推進活動・研修の評価ー活動・研修開始前と終了後の比較より(未発表)」

#### 謝辞

本調査を実施するにあたりお世話になりました鹿島病院のみなさま、活動・研修参加者のみなさまに深く感謝いたします。

# 健康コーナー 豆知識

## これからの季節注意したい食中毒

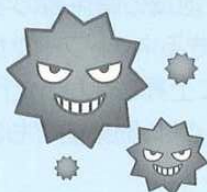


診療部 栄養課 小笹 明美

梅雨も明け夏らしくなってきました。夏になると釣りに行かれたり、釣った魚をいただいたりして生の魚を調理する機会も増えてくるのではないのでしょうか？そんな時に注意したい食中毒の原因菌、虫について紹介します。

### ①腸炎ビブリオ

- 〈特徴〉  
海水や海産魚介類などに多く生息しています。好塩性で塩分3%前後で良く発育します。真水には弱い。夏に多く発生。
- 〈症状〉  
下痢、嘔吐、腹痛（へその周り）、発熱など。
- 〈予防方法〉  
・短時間でも冷蔵で保存し、増殖を抑える。（4℃以下ではほとんど増殖しない）  
・魚介類を真水でよく洗う  
・二次感染防止のため魚介類と他の食品の直接・間接的接触を徹底してさける。



### ②アニサキス(寄生虫)

- 〈特徴〉  
サバ、たら、鮭、イカ等の内蔵や筋肉中に幼虫として寄生しています。2~3センチくらいの線虫。誤って人が食べると胃壁、腸壁に侵入し、激しい腹痛、吐き気を起こします。治療法は内視鏡による摘出以外にはありません。
- 〈症状〉  
激しい腹痛、吐き気、ひどい時は吐血
- 〈予防方法〉  
・十分な冷凍(-20℃24時間以上)、加熱調理。  
・内蔵は早めに除去し、十分に洗浄。  
・アニサキス幼虫が付いていることに気づいたら、生で食べることはやめる。  
・刺身で食べる場合は解凍したものを刺身にする。もしくは1cm以下にカットして食べましょう。

### アウトドアにもおすすめ! さっぱり美味しくホイル焼き!

#### 〈材料〉

魚の切り身、玉ねぎ、キノコ、トマトなど  
塩コショウ、バターorマーガリン  
アルミホイル

#### 〈作り方〉

- ①野菜を食べやすい大きさにカット。
- ②アルミホイルの上に①の野菜を置き、その上に魚の切り身を置く。
- ③②に塩コショウ、バターorマーガリンを乗せ包む
- ④180度に余熱したオーブンで15~20分焼く。  
※オーブンがない場合は魚焼グリル、フライパン等で15~20分焼く。

焼きあがったらお好みでレモンを搾ったり、ポン酢などで調味して食べてください。  
野菜はある物でOK。火の通りを良くするために薄く切るのがポイント!



### この人だ〜れ?



答えはP8▶

# 健康フェスティバル

リハビリテーション部  
景山 普一



7月10日、昨年に続き第2回目となる鹿島病院健康フェスティバルを開催しました。

当日は幸いなことに天候も良く通所リハビリ、デイサービスの利用者様ご家族を中心に37名の方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。

フェスティバルの内容は講演として管理栄養士による「家庭でできる脱水予防」、歯科衛生士による「お口の健康について」、作業療法士による「腰痛予防体操」。業者による福祉用具の展示や健康食品の紹介。リハビリスタッフによる身体機能評価と運動指導でした。

「脱水予防」では熱中症のリスクを説明した上で家庭で簡単に出来る経口補水液の作り方を実演し、「お口の健康について」では口腔体操や義歯についての説明、「腰痛予防」では座ってできる体操として実演・指導を行いました。全体的に「わかりやすく説明がよかった」、「とても参考になりました」との意見をいただき、少しでも生活の一助となれば幸いに思います。全体の雰囲気としても明るく笑顔の多い印象で、ご家族様同士の交流の場としても楽しく過ごしていただけたと思います。今後も地域貢献の一環として、継続して開催していければと思います。今後ともご支援宜しく願います。



## 松江市民レガッタ応急手当講習をおこないました

リハビリテーション部  
藤原 法文



6月23日(木)松江市民レガッタ役員向けに『熱中症対策と心肺蘇生法(AED使用)』の講習を行いました。事前に応急手当について講習をすることは市民レガッタとして初めての試みとのことで、参加者の皆さんも一生懸命に取り組んでおられました。私も毎年、市民レガッタには参加させて頂き、ボートを漕いでいます。暑い時期のレースの為、熱中症の予防・対策が必要で、なってからの対処もですが、ならないように予防に努めることが個人として出来る大事なことという点を伝えていきました。



# お知らせコーナー

## 人事のお知らせ

(50音順)

### 【新入職員紹介】

石原 幸子 (医療相談部看護師)



- 趣味 旅行、まんがを読むこと
- 好きなこと 高校野球を応援すること
- 一言あいさつ

6月より医療相談部に配属となりました。看護師として勤務してきましたが、この度新たな分野に挑戦し知識を深めたいと思っています。微力ではありますが精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

井上 明帆 (リハビリテーション部 リハビリテーション科作業療法士)



- 趣味 スポーツ、書道
- 好きなこと 映画鑑賞
- 一言あいさつ

新社会人となります。不安がありますが持ち前の明るさで一生懸命頑張ります。よろしくお願ひします。

小笹 明美 (診療部栄養課管理栄養士)



- 趣味 洋裁、DIY
- 好きなこと キャンプ、ジョギング、サッカー観戦
- 一言あいさつ

4月中旬から勤務させて頂いております。早く仕事を覚えて笑顔でがんばりたいと思います。よろしくお願ひします。

○任命 看護部介護福祉士 井谷 祥久(看護部介護職員)

○退職 清水 好子 (在宅サービス部居宅介護支援事業所) 中橋 陽子(診療部栄養課) 常森 義広(看護部)

菊川 こそえ (診療部栄養課調理員)



- 趣味 お菓子づくり
- 好きなこと 読書
- 一言あいさつ

7月より勤務させて頂くことになりました。慣れないことも多くご迷惑をおかけしますが、精一杯がんばりますので、よろしくお願い致します。

来海 香里 (薬剤部薬剤師)



- 趣味 世界遺産を観ること
- 好きなこと 金麦を飲むこと
- 一言あいさつ

ガリガリ君で馴染みの赤城乳業で営業をしていました。薬剤師歴、医療従事者短い為ご迷惑おかけしますが、ご指導宜しくお願ひします。

高野 憲吾 (リハビリテーション部 リハビリテーション科理学療法士)



- 趣味 マラソン、トレイルラン、釣り
- 好きなこと アニメ、映画など
- 一言あいさつ

8年ぶりに地元に戻ってきました。自衛隊で培った体力で趣味も仕事も楽しみな暮らしをしていきたいと思ひます。宜しくお願ひします。

団野 美里 (在宅サービス部 通所リハビリテーション介護福祉士)



- 趣味 バレーボール
- 好きなこと ショッピング、旅行
- 一言あいさつ

5月より通所リハの方で勤務させて頂く事になりました。笑顔忘れず一日一日が勉強だと思つて頑張りたいと思ひます。ご迷惑をおかけすると思ひますが、よろしくお願ひします。

福井 達彦 (在宅サービス部 居宅介護支援事務所ケアマネージャー)



- 趣味 映画鑑賞、サッカー観戦
- 好きなこと 温泉
- 一言あいさつ

5月よりケアマネージャーとして勤務させて頂いております。今まで7年間ほど介護士として他のデイサービスに務めていたが、ケアマネージャーとしては初めて努めるので、しっかり仕事できるようにがんばりたいと思ひます。

大和 飛鳥 (在宅サービス部 通所リハビリテーション介護福祉士)



- 趣味 登山、ジョギング、旅行、1人カラオケ、1人飲み歩き
- 好きなこと 友達とお酒を飲みながら、くだらない話で盛り上がる時間
- 一言あいさつ

初めまして。大和飛鳥と申します。よく芸名みたいと言われるが、本名です。1日でも早く新たな職場環境に慣れ、大和が入社してきてよかったと言ってもらえるような職員となれるようがんばっていきたくと思ひます。よろしくお願ひします。

### この人だ〜れ?

1 医療相談部 安達亜希子さん

2 事務部 橋本 由香さん



# 公仁会事業報告 H28・3・4・5月

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

## 鹿島病院

### ①外来部門

(診療日数64日)	1日平均入数
延外来患者数	1,258人 19.7人/日

### ②病棟部門

#### ②-1 特殊疾患病棟 (2F)

(診療日数92日)	1日平均入数
延入院患者数	5,401人 58.7人/日
レスピレーター装着症患者数	2,419人 26.3人/日
リハビリ延実施数	1,513単位 16.4単位/日

#### ②-2 回復期リハビリテーション病棟 (3F)

延入院患者数	4,641人 50.4人/日
脳血管疾患リハビリ	17,001単位 184.8単位/日
運動器リハビリ	12,157単位 132.1単位/日
呼吸器リハビリ	単位 0.0単位/日

#### ②-3 医療療養病棟 (4F)

延入院患者数	4,952人 53.8人/日
脳血管疾患リハビリ	2,568単位 27.9単位/日
運動器リハビリ	622単位 6.8単位/日
呼吸器リハビリ	507単位 5.5単位/日
がん患者リハビリ	45単位 0.5単位/日

#### ②-4 短期入所療養介護

ショートステイ延利用者数	0.0人/日
--------------	--------

## 在宅サービス部

### ①通所リハビリ "やまゆり"

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,481人 31.4人/日
短期集中リハビリ実施数	165単位 2.1単位/日

### ②鹿島病院 デイサービスセンター

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所介護延利用者数	1,608人 20.4人/日

### ④訪問看護 "いつくしみ"

(稼働日数61日)	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	238人 3.9人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	636人 10.4人/日
訪問看護延利用者数(介護・リハビリ)	194人 3.2人/日

### ⑤鹿島病院 やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数61日)	月平均策定数
延べケアプラン策定数	417人 139人/月
延べ介護予防ケアプラン数	74人 25人/月

## 職員数

職種	職員数(名)
医師	6人
薬剤師	3人
P T	22人
O T	19人
S T	5人
看護師(准看護師)	77人
臨床検査技師	2人
診療放射線技師	1人
社会福祉士	6人
介護支援専門員	6人
介護福祉士(介護職員)	70人
歯科衛生士	2人
管理栄養士	3人
調理員	10人
事務職員	17人
合計	249人

28.7.1現在



医療法人財団公仁会  
基本理念

私たちは、仁愛の心をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会  
基本方針

1. 鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
2. 患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりとつくしみの心で接します。
3. 技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会  
行動指針

1. Safety …安全を最優先します。
2. Speedy …変化に能動的に挑戦します。
3. Service …おもてなしの精神で接します。

## 医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

### 中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

1. 良質な回復期・慢性期医療の提供（病院機能）
  - (1)回復期医療の充実
  - (2)良質な慢性期医療の提供
  - (3)質の高いリハビリテーションの提供
  - (4)看護体制の充実と強化
2. 在宅生活を支える医療の展開（在宅サービス機能）
  - (1)良質なリハビリテーションの提供
  - (2)良質な在宅生活支援サービスの提供
3. 地域連携 及び 地域貢献
  - (1)病病連携、病診連携、地域（行政（県・市・保健・福祉・介護）、地区）連携
  - (2)予防医療や介護技術を地域へ普及
  - (3)地域への情報発信
4. 人材の確保 及び 育成
5. 医療安全・院内感染対策の推進
6. 医療サービスの質の改善への取り組み
  - (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動
  - (2)臨床指標（Clinical Indicator）の検討・活用
  - (3)患者満足度向上の組織的取り組み
  - (4)施設・設備・環境の整備と充実
7. 新電子カルテシステムの検討・移行準備

## 患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

### 1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

### 2. 平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

### 3. インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聴く（セカンドオピニオン）ことができます。

### 4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

### 5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしには開示されません。

## 鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定  
(平成22年1月6日:部長会承認)

1. 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
2. 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
3. 終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
4. 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
5. 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。

# ときめき広場



## コンビニエンスストアで 介護食品提供に向けて

現在、鹿島病院栄養課ではコンビニエンスストアとのコラボ企画で、介護食品、栄養補助食品、とろみ剤等を店頭に配置していただく計画を進めています。

先日、職員を対象に店頭配置予定の介護食製品の試食会を行いました。多数の職員が参加し大盛況な会となりました。職員は、興味津々で業者の方に患者さんの事を思い浮かべながら質問したり、試食したりしていました。

今後、鹿島病院近くにあるコンビニエンスストアにて販売開始予定です。

### 【参加者の声】

- ・介護食なのに見た目も綺麗で美味しくて一般食の様でした。
- ・ムース食が予想外に美味しくてびっくりしました。
- ・しっかりした味付けで患者さんにも喜んで食べてもらえそう。
- ・色々種類があるので飽きることなく楽しんで食べてもらえそうですね。



## 部署紹介

### 外来

私たち外来看護師は大きなハートで患者さんと日々向き合っています。毎日たくさんのお会いやエピソードがあります。これからも笑顔絶やさず毎日頑張ります！



## 編集後記

今回は、企業との連携・地域との連携の話題が盛りだくさんの夏号ができあがりました(´▽`)今後の経過にも、ぜひご注目ください。



■編集・発行・責任者：福利厚生・広報委員会委員長  
医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1  
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/  
鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221  
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640  
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645  
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637  
鹿島病院デイサービスセンター TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 千鳥印刷株式会社